

お気軽にお越しください！



『ラコルタ』って、こんな所！！

取材時も、子育て中のママからお年寄りまで、来館者が途切れることのない「ラコルタ」。その施設内を、一部ご紹介！



未開封・未使用の不用品を持ち込み、誰かにおすそわけ。譲渡、譲受ともに無料。伝言に心も温まる、新・地域コミュニケーション！



広々とした交流スペースは、来館者とスタッフの相談に使用されるほか、市民公益活動の打ち合わせにも無料で利用可能。壁面には、各団体の活動情報やボランティア募集の情報が貼り出されている



音楽を通じた健康促進コンサート

特定非営利活動法人 吹田市音楽療法推進会 おんがく・さ〜くる・コスモス



季節に応じた自然体験プログラム

特定非営利活動法人 吹田子ども・夢・未来協会



市内公園の樹木への名札かけ

特定非営利活動法人 すいた環境学習協会(みどり組)



小中学校での自然環境学習

特定非営利活動法人 すいた体験活動クラブ



コミュニティカフェ『さたけん家』での居場所づくり

佐竹台スマイルプロジェクト実行委員会



子育ての支え合いの場

ママGoGo



ラコルタサポーター 辻野京子さん

「エンカレ」2期生。修了後は「ラコルタ」の業務補助などで活躍中

市民が「志縁」と「地縁」を感じられるまちづくり

『ラコルタ』では、市民公益活動を支援できる人材の育成にも注力する。その一つが、ソーシャルな生き方について学ぶ講座「eNカレッジ」(以下「エンカレ」)だ。現在は第3期生が、約2カ月・全6回の講座を受講中。「エンカレ」修了生の辻野京子さんは、長年勤めた会社を退職したのをきっかけに、「私にも何かお役に立てることがあれば」と、ボランティア活動に興味を持ったのだそう。「エンカレ」では若い受講生との交流も生まれ、多くの気づきを得た。辻野さんは「私は仕事以外のことを知らなかった。認識が狭かったんですね(笑)」と振り返る。今は「ラコルタサポーター」として『ラコルタ』の事業補助も行う辻野さん。「辻野さんのように、お仕事でお忙しかった方々が今こうしてさまざまなシーンで活躍してくださる姿を見られると本当に嬉しい！」と、スタッフの矢野眞里加さんも目を細める。

また、『ラコルタ』には、貸事務ブースも設けている。障がいを持つ子どもたちへ、放課後や休日の活動の場を与える「NPO法人 障害児児童見守りの場 わかば」の事務職員・本山薫さんも利用者の一人。「駅直結で設備も整っていますし、何より『ラコルタ』のスタッフ

ボランティア活動、「はじめの一步」

興味はあるが、どうしたらいいかわからない人は……

市民公益活動入門講座

“市民公益活動は何か”という説明の後、参加者自身の関心やライフスタイルに合ったボランティア活動についてスタッフが相談に応じてくれる。毎月1回開催、参加無料。次回は11/16(水)10:30~12:00、次々回は12/15(木)13:30~15:00。

毎日仕事忙しいけれど、何かをやりたい人は……

ぷちボラ

忙しくても誰かと繋がりたい、地域の役に立ちたいという人に、短時間でできる単発の活動を提案してくれる。受け入れ先は、吹田市の市民公益活動団体や公共施設など。募集中のプログラムは『ラコルタ』へ問い合わせを。公式HPでも掲載中！

巻頭特集

吹田市立市民公益活動センター ラコルタ

「やりたいこと」が、人や地域のためになる喜びを

一緒に課題を解決していこうと志を同じくする人々が集まる場所。市民のボランティア活動やNPO法人の活動を支援する、『吹田市立市民公益活動センター ラコルタ』は、多くの輪、多くの縁、そして多くの優しさで満ち溢れていた。



年400件の相談を受けるボランティア活動の拠点

市民公益活動。ボランティア。難しくそう、ハードルも高そう……。しかし、「決してそんなことはないですよ」と教えてくださったのが、今回取材に伺った吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」(以下「ラコルタ」)のセンター長 柳瀬真佐子さん。市民公益活動推進の活動拠点として平成24年9月にできた施設で、愛称の「ラコルタ」はイタリア語で「集まり、収穫」という意味だ。そもそも市民公益活動とは、市民が主体的に地域貢献や社会貢献に取り組み活動のこと。驚いたのは、各個人が市民公益活動に興味を持つきっかけが千差万別であること。「定年退職に伴い、やることを見つけた」、「職場と自宅の往復だけの毎日を変えたい」、「子育てが一段落したから」という人から、「単身赴任なので、話し相手が見つからない」、「生活リズムを整えるため」という人もいるそう。実にさまざま。最初から「世のため！人のため！！」と気構えるのではなく、きっかけは何でもよいですよ(笑)。

柳瀬さんの言葉に、ボランティア活動への敷居は、「一気に低くなった」。



吹田市立市民公益活動センター ラコルタ センター長 柳瀬真佐子さん
スタッフ 矢野眞里加さん

ボランティア活動の社会的評価向上を目指して

『ラコルタ』の今後の展望を伺うと、柳瀬さんは「市民公益活動の評価を上げたい」と話す。世の中には、大きく分けて2種類の働き方がある。給料を貰えるのがペイドワーク。逆に、家事や育児、介護、そして市民公益活動等はアンペイドワーク、直訳すると、無報酬労働だ。「世間ではお金を稼ぐ仕事のほうが価値が高いと思われる。でも、アンペイドワークを誰もしなかったら社会は切盛り立ちません。だから、ペイドが格上、アンペイドが格下ではない。仕事として対等なんです」(柳瀬さん)。しかし今の日本では、ボランティアは無償、稼げない仕事と思われるのが現実だ。柳瀬さんは続ける。「市民公益活動は社会に必要とされるもの。当然、必要以上に儲けようというのではありません。ただ、価値に見合った対価は得るべきです。私たちの使命は市民公益活動をお金にするモデルをつくること。社会貢献が、仕事として対価をいただける時代を作り、引き継がなければならぬ。まだまだですが、大切なことなんです」。

人の役に立つ活動は、尊い。社会全体がその真の価値を理解し、社会的評価が向上する日が来ることを、願ってやまない。

取材協力

吹田市立市民公益活動センター ラコルタ
吹田市津雲台1-2-1 千里ニュータウンプラザ6F (阪急「南千里駅」すぐ)
開館時間 / 9:30 ~ 21:30(日・祝 ~ 17:30)
休 / 月、12/29 ~ 1/3、5/3 ~ 5/5
【問】TEL.06-6155-3167
http://suita-koueki.org